

裾野ジャーナル

8月23日(木) 第3506号
2012年(平成24年)

発行日/毎週火・木・土曜日
発行所/有限会社 田代企画
裾野市平松 383-8

月12回発行 1部70円
裾野ジャーナル編集部 ©
☎(993)9388・FAX(993)9390

裾野ジャーナル



完成したポンポン蒸気船で遊ぶ子供たち

ポンポン蒸気船をつくらう

町震子ども会を対象に
くらりか「深良理科教室」

くらりか静岡の「深良理科教室」がさる十一日、町震子ども会に開かれた。

同教室は、子供たちの理科に対する興味を呼び覚ませようと東京工業大学OB会(社)蔵

前工業会のボランティアグループ「くらりか」(蔵前理科教室ふしぎ不思議)が小学生を対象に開催している出前教室。昨年度から静岡県のメンバーが県東部でも活動を開始し、身近な材料を使ったモノづくりの楽しさを体験してもらうとともに、工作したものが動く、見える原理などを分かりやすく教えている。

二回目の今回のテーマは「ポンポン蒸気船をつくらう」で、この日は町震子ども会の会員二十五人と保護者五人が参加。はじめに釜洞さんが蒸気力によって船が動く原理を分かりやすく解説したあと、牛乳パックを利用した船体や細いアルミ管で作ったエンジン部分など同グループのメンバーたちが手作りしたキットが配られ、参加者たちは釜洞さんから五人のメンバーに手伝ってもらいながらポンポン蒸気船の製作に取り組んだ。

製作作業は約三十分ほどで終了。参加者たちは完成したポンポン蒸気船を持って建物の外に出て、広場に用意された子供用プールに浮かべて本当に船が動くかを試した。エンジン部分にセットした固形燃料にライターで火をつける間もなく船がスーと水面を走り始め、子供たちは目を輝かせながら「ほくの船が動いた」「わー、速いぞ」と歓声を上げていた。

くらりか静岡では、深良教室の他にも三島市や富士宮市、沼津市などの子ども会や小学校の授業に向いて出前理科教室を開催しており、釜洞さんは「今後もこうした活動を少しずつ広げていきたい」と話していた。問合せは釜洞さん ☎090-3257-18852へ。